

猿橋
小学校

瑛玖良

瑛玖良校は明治期における猿橋小の旧名。切磋琢磨の意が込められている。

思いのあふれる六送会

校長 磯部 裕之

2月22日、今年度の6年生を送る会（以下、六送会）が行われました。プログラムが進んで行く中で、進行役の5年生が「ここまでの感想を教えてください」と何名かの6年生に尋ねると、ある6年生児童がこのように答えました。「こんなにうれしいことはありません」

なんて素直で、まっすぐな感想なのでしょう。この言葉に象徴されるように、今年の六送会も、「おめでとう」「今までありがとう」といった1～5年生からの6年生への感謝の思いがあふれる会となりました。

昨年度までの数年間は、感染症対策のために、各学年からのメッセージはビデオという形で6年生に届けられたこの六送会。今年は、数年ぶりに体育館で集まって、直接、それぞれの学年から感謝のメッセージをダンスや言葉など思い思いの形で伝えることができました。

突然ですが、「幸せ」には、3つの幸せがあると聞いたことがあります。

1つは、してもらう幸せ。これは、赤ちゃんや小さな子どもが、誰かに何かをしてもらった時に感じる幸せ。

2つ目は、できる幸せ。今までできなかったことが、できるようになった時に感じる幸せ。

そして、3つ目は、してあげる幸せ。これは、人に何かをしてあげることで感じる幸せ。相手が喜んでくれることで、自分も幸せを感じるができるというものです。

今回、久々に対面式で実施できたことで、この3つの幸せが、グルグルと渦を巻きながら、会場の体育館を幸せでいっぱい満たしてくれたようでした。この1年間、6年生は、最学年として、本当に下学年を大事にしてきてくれました。キラキラ班（縦割り班）での遊びでも、楽しい遊びを提案して盛り上げていました。こうして、1年間「してもらう」側だった1年生から5年生が、この日だけは、感謝を伝える側に回って、練習を重ねてきたパフォーマンスを全力で披露するわけですから、6年生も、全身で喜びを感じていたようでした。もちろん、6年生からのお礼のメッセージも思いの詰まった素晴らしいものとなりました。



六送会が終わったその日の昼休み、1年教室の前には、何名かの6年生が1年生をおんぶしたり手をつないだりする姿がありました。そして、その日の縦割り班の清掃では、六送会でのメッセージに対するお礼の言葉を述べる6年生の姿も見られました。こういった感謝される経験、「ありがとう」と伝えてもらう経験は、人の心をやさしく温かいものに変えてくれるようです。そして、自分がしてきたことが認められることで、大きな自信になっていくのかもしれない。六送会という大きなイベントをとおして、全校の子どもたちの大きな成長を実感した一日となりました。

いよいよ3月に入りました。みんなで、1年間の締めくくりに取り組んでまいります。